

学校規模適正化・適正配置に関する地域説明会(会議録)

1 日 時 令和7年7月25日(金)、18:30~19:50

2 開催場所 鶴住居地区生活応援センター

3 参加者 13名

4 事務局

【教育委員会事務局】

高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長

佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩淵勝也学校教育課長

鈴木隆光学校教育課主幹、川崎克総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

【市長部局】

小山田俊一産業振興部長、村山明子保健福祉部次長、佐々木義友総務課長、

二本松史敏生活環境課長、川崎俊之都市計画課長、土橋照好防災危機管理課長

5 経過

(1)開会

(2)教育長あいさつ

【高橋教育長】

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、日頃より当地区の皆様には、鶴住居小学校、釜石東中学校の学校教育の推進に何かとご尽力いただいておりますことに、感謝申し上げます。(中略)

当地区については、栗林小学校と鶴住居小学校の学校統合ということで提案をしているところです。それから、中学校は今、市内に5校ありますが、この統合の計画案では2校にするということを予定しております。市内の釜石中学校、唐丹中学校、甲子中学校、大平中学校4校を1つに、釜石東中学校につきましては、ここに残す形になりますが、鶴住居小学校と釜石東中学校の小中一貫教育を導入についても、今日、説明させていただきたいと思っておりますので、どうぞ、忌憚のないご意見やご質問をいただければと思います。

(3)職員紹介

(4)説明

(教育委員会事務局より説明)

(5)意見交換(質疑応答)

【参加者】

こういった素晴らしい資料があってもメモをするのにもテーブルがなかったので、ご配慮をお願いしたいと思います。

子どもたちが小学校にお世話になっていた頃、ちょっと気がかりだったのが通学の関係です。例えば、鵜住居でいうと川目地区のバス利用や通学の距離ですが、指定された距離に何メートルか足りないということで、同じ地区でありながら、ある子はバスを使って、隣の子は距離が何メートルか足りないといって歩いて通学していました。自分もその問題を大きく感じていましたので、市にはその都度要望しましたが、決まりだからと言われました。市の大きな取組ではありますが、今後の検討の中で、その辺を十分配慮していただきたいなと思っています。

鵜住居地区の釜石東中と鵜住居小で小中一貫校ということですが、お隣の大槌町がもう既に一貫校をやられていますので、今までの中で何かメリット・デメリットで把握している点があればお願いします。

この前、東中が創立50周年でしたが、一貫校になれば、年数はチャラになるのですか。

【教育委員会事務局】

小中一貫校や義務教育学校のメリットと実践の様子を紹介させていただきます。

例えば、大槌町では、義務教育学校は小学校1年生から中学校3年生までを、1年生から9年生という呼び方で、校内では生活しています。

あとは、紫波町でも、紫波東学園で、こちらは小学校の6年間と中学校の3年間という期間で区切りをつけて9年間を見通した教育をされています。

一貫校となると同じ施設でやられている学校が多いわけで、同じ学年の横のつながりも当然ですけれども、小中一貫校や義務教育学校は縦のつながり、異学年のつながりが大きくいろいろな事例で紹介されていると思います。

例えば、小学校6年生と中学校1年生が交流するとなってもすぐできますし、学校行事や委員会活動など様々な異学年の集団で活動ができると、そこから先輩としての部分とか、下級生として憧れの先輩とか、この学校を今後どういうふうにしていきたいか、という子どもたちのこれから取り組む目標等が、より良い形で育まれると聞いています。

【高橋教育長】

周年の区切りが一貫校になれば一旦なくなるのかということですが、導入を目指しているのは、小中一貫教育ということで、小学校、中学校は一応それぞれ独立するという形で、その上で一貫教育を行うので、鵜住居小学校も釜石東中学校も存続する形です。ただ、一貫教育をやっているということで、例えば、隣の大槌町ですと、吉里吉里小学校と吉里吉

里中学校がありますが、呼び方として、吉里吉里学園という総称にしております。

釜石東中学校と鵜住居小学校の小中一貫教育の導入についても、正式には釜石東中学校、鵜住居小学校で、その上で総称として、例えば仮にですけれども、釜石東学園とか、そういう総称は付けて呼ぶような形になるのではないかと考えております。

【教育委員会事務局】

スクールバスの質問についてお答えします。今ご質問のあった川目地区の件は何度かお聞きしております。確か、小学校から中学校に上がったときに、今まではスクールバスに乗っていたのが中学校になったら概ね4kmという距離で乗れなくなったというお話だったと思います。

教育委員会では、例えば距離で線を引いた場合に、隣の家の人とその距離を1m越えてしまった場合に、そこで線を引くことはできないということで、概ねというところで距離を定めています。市内全体を見ますと、実はそういうところがたくさんありまして、それによってこちらでは概ねということで距離を定めて、そこに該当する方、またはそれ以上離れた場所に家がある方はスクールバスを出しています。その中には、個別に地形や条件で、小学校1年生が1人でその距離を歩くにはちょっとどうなのか、というところもありますし、そういったところも個別に対応しています。市内全体を見て、ここの地区はどうなのか、というところも全部確認した上で対応していくことになります。

【参加者】

やっぱり心配なのは低学年です。あとは、最近どこの地区も熊がしょっちゅう出ています。そういうところの配慮もお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【参加者】

小中一貫校となると、人数も少なくなってくるので部活の面の心配があります。人数が大きい学校と、小さい学校、小中一貫校でも中学校は中学校なので、部活の面がどうなるのか不安なところです。

【教育委員会事務局】

部活動については、現在、地域移行することも含めて、子どもたちが活動したいことについて、様々な配慮や準備、体制を整えていくという動きになっています。将来的にも考えて、例えば、東中学校にはない部活が釜石中学校にある場合には、釜石中学校の部活と一緒に参加していく体制、仕組みづくりというのは現在も進めてはいます。ただ、中総体に出るとなると、中体連のルールもありますので、現在そこは調整しているところでしたので、そこから辺も含めてより良い子どもたちの活動の確保というところは、準備したいと思っております。

ただ、今の話とはちょっと違うかもしれませんが、地域移行の議論を進めています、これがどこまでできるか、実際なかなか受け皿や指導者もないと言った課題に直面しているところもあります。これについては、やはり地域や保護者の皆様にも、様々ご協力、ご理解いただかないと進められない部分もありますので、よろしくお願いします。

【参加者】

地域移行も分かるのですが、やっぱり時間的に送っていかねばならないというところもあって、そこでもし一貫校となったら、1つの場所に集まって部活動をやる時に、スクールバスを出してくれたりすることはあるのかなと思っていました。やっぱり学習面もスポーツ面も大きい学校と小さい学校では全然違うなという印象だったので、それで一貫校の不安はあります。

【教育委員会事務局】

移動の部分については、説明会の中でご意見として頂いているところです。体制づくりの中で、移動の部分は引き続き検討したいと思っています。

【参加者】

対応をちゃんとしていただかないと、鵜住居にも人がいなくなるのではないかと考えていました。

【参加者】

その通りだ。

【教育委員会事務局】

頂いたご意見を、きちんと部活動に限らず検討していきたいと思います。

【参加者】

スクールバスの件で意見を出していたのですが、やっぱりスクールバスには乗れませんでした。教育委員会には何回か連絡して乗れるようにできないかということ、乗れる対象の距離にあるバス停に歩いて行くので、そっちから乗れないのかということをお願いしたのですが、スクールバスが足りないとか、もっと大変なところから通っている生徒はいるという返事でした。今、市のバスで通わせようと思ったら始発が7時です。学校に通うにも通えない。冬の間は自転車通学が禁止なので生徒はどうやって冬の間通ったらいいのか。親が送って行けない家庭は大変なのではないか。

釜石地区には学童みたいなのがあって、そこに中学生が通えるようなところがある。鵜住居にもそういうところがあればいいのにな、と思う。

【参加者】

市のバスがないとなれば、仕事が終わって迎えに行くまでに居る場所がないです。そういうところが確保できればいいというのは、保護者の間でも話し合っています。あとで資料や意見をまとめて提出しようという状況でした。

【市長部局】

お話の中にあつた、中学生が行ける場所というのは、上中島の児童館のことかなと思っておりました。

児童館は市内に4か所ありますが、実は鶉住居の学童も児童館の看板を一緒に掲げていますので、小中学生の居場所というところで、本来であれば開放しているはずなのですが、その周知がどのようになっているのかを確認して、今後、中学生の居場所として使えるように働きかけていきたいと思います。

【教育委員会事務局】

公共交通の部分で大きく変わる予定はありますか。

【市長部局】

川目地区ですと、市の北部コミュニティバスが橋野地区から鶉住居駅間を運行していますが、今の時点で小学生とかが乗ることを想定して運行はしておりません。今後、例えば、統合になるとか、今のような意見で利用したいということであれば、時間の検討をしていきたいと思います。

【参加者】

市役所にも連絡しました。中学校でスクールバスに乗れないとなって、自転車通学になったときに、市のバスを使いたくて。よく耳にしていたのが、にこにこバスといって、時間を指定して来ていただけるのがありますよね。

【教育委員会事務局】

予約するバスですか。

【参加者】

はい。帰りの時間が、例えば12時前とか13時前になっても、にこにこバスにその都度連絡すれば、自宅にちゃんと帰れるなと思ってにこにこバスに連絡したところ、川目地区は走っていませんと言われました。コミュニティバスのほうに言ったら5年前にバスの時刻が変わって、今年の6月に話し合いがあるのでそこで意見を調整しますということでした。橋野

のほうからの出発のバスが何時になるか分かりませんが、近くのバス停に来るのが7時10分ぐらいだと早すぎるんです。もうちょっと中学校や高校に通える時間帯に設定できないのかと言ったら、また今年の6月に、そういう時間を変更できるような話し合いがあるとされました。

【市長部局】

前段で出た予約で乗れるにこここバスは、震災直後に箱崎とか箱崎白浜方面で一時的に運行したことはありますが、今は決まった時間に決まったルートを走る方法に変わっていますので、北部で走っている路線バスと同じような運行になっています。朝の時間帯の運行は、1台のバスが栗橋方面から鶴住居駅まで行って、そしてまたそのバスが戻って、そういった行き来の中で1日の中で効率の良い時間という見方をしています。今の話でいくともうちょっと朝の遅い時間があればいいというお話でしたが、そうすると鶴住居駅から今度は栗橋方面に向かうバスも、どんどん1日の中で遅くなっていくという面もありますが、そこは実際に何時ごろがいいのか、ここでは必ずできるという返事はできませんが、意見を聞いた上で調整は検討することはできますので、考えてみたいと思います。

【参加者】

人数が少ない地域だからこそ、存続させたいというのであれば、そういうところも考えてくれたほうがいいのではないかなと思います。

【参加者】

橋野まで行っている中で、途中で停まって降ろすとか、そんなに負担なんですか。何かまずい点でもあるんですか、バスの運用について。先ほどお話があったように、最寄りのバス停で距離が足りなければ他のバス停まで歩いてもらってとか、いろいろな工夫、改善点もでしたが、橋野まで行くスクールバスが、行き帰りに1回停まっても、2回停まっても全然影響がないと思います。何かだめな理由、法律的なものはあるんですか。

【参加者】

バラバラですもんね。スクールバスの中身。その時の人数を調べてここまではOKです、という対応はできないのか。どんどん人数が少なくなるからこそ、範囲を増やすとか。

【参加者】

国の基準があるのか、それとも市の学校なので市でどうにかできないのか。

【教育委員会事務局】

小中学校のスクールバスではなかったのですが、幼稚園のバスで置き去りという問題が

全国的にありました。釜石市におきましては、全部申込制で、例えば、登校時は乗って、帰りは乗らないなど、全部チェックした上で、運転手の方にも置き去りがないようにしていただいてということなので、釜石市としては、現状では、空いているから途中で乗せませんということはありません。ただ、そのルートで、例えば、今後、バスに余裕があって、もし乗れるスペースがあった場合には、距離の制限もありますけれども、ある程度柔軟に対応できればなと思っています。

【参加者】

ぜひ、お願いします。お父さん、お母さんの仕事の関係で学童にお世話になって、帰りはバスを使わないで親が迎えにくるなど形態が変わってきていますので、いずれ、スクールバスを利用しやすく、安全面の話もありましたが、地域に根差した取組をしてほしいと思います。

【参加者】

私の子どものときもそうでしたが、4kmの壁があって、実は川目地区は、川を挟んで向こう側の栗林地区の子どもは乗れて、もっと遠い地区の子どもが乗れないということがありました。これをどうにか改善できないか何年も要望しました。置き去りだね、川目地区は。

【教育委員会事務局】

今、スクールバスの関係でご意見頂戴しました。今回の推進計画を進めていく中で、鵜住居小学校、東中学校、小規模校をどう残していくかという観点、それは児童生徒の部分もそうですし、通学の部分、あとは、今の親御さんの就労形態も大きく関わってくると思いますので、その周りの環境も考慮した中で、より良い方法論を一緒に考えていきたいと思っています。おっしゃる通り、川目地区の向かいはずぐ栗林で、そっちはOKなのになんでこっちはだめとか、そういった入り組んだところをどう整理していったらいいのか、あとは、公共交通の在り方、市の全体の在り方も含めまして、議論したいと思っています。

【参加者】

栗林小学校が統合すれば間違いなくスクールバスって足りないと思う。もう1台スクールバスを入れるともっと座席が余ると思う。今、検討という言葉が随分使っているが、本当に実施する検討をしてください。

【教育委員会事務局】

栗橋方面のスクールバスですと、大きくバス停が増えるかどうか、今のルートでいいかどうかという部分も栗林小学校の保護者の方から意見を頂戴していただいて、その部分を勘案しながら、そのルートで適正な運行の仕方というのを検討したいと思っています。

【参加者】

子どもの数がこれだけ少なくなって、これから先もっと少なくなる。バスの運用について、子どもたちが少なければ全部乗せればいいのではないか。これだけ熊がいて、子どもたちが危なくてしょうがない。熊の危険性を考えれば、全部車に乗せてはどうでしょうか。前向きに、子どもの命を守るということで考えてはいかがでしょうか。

【教育委員会事務局】

バスで市内全部の児童生徒ということが最大限だと思いますけれども、それがいいのか、あるいは、普段の子どもたちの運動量、健康面のことも考えていかなければいけないと思っておりますので、頂いたご意見を含めトータルで検討したいと思います。

【教育委員会事務局】

そろそろお時間となりますが、発言されたい方いらっしゃいましたらよろしく願いいたします。なければ終了とさせていただきますがよろしいでしょうか。

【参加者】

(なし)

【高橋教育長】

今日のお話を聞いて、教育委員会として十分対応できていない部分があったということで、その点のところお詫びを申し上げたいと思います。

これから学校統合を進めていく中で、鶯住居小学校と東中学校は、小中一貫教育を導入したいということでご説明しておりますが、まだ小中一貫教育について十分に理解していただけていない部分もあるのではないかと思いますので、今後、小中一貫校についての理解を図りながら、地域の皆様、保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

小中一貫校として、どういうふうな学校を作っていくといいのか新しい形の学校にしていくというところで、一緒に考えていけたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。

(6)閉会